

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-161	15-327	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
A Randomized Controlled Trial of a Telephone Intervention for Alcohol Misuse With Injured Emergency Department Patients. 負傷し救急治療部に搬送された患者と一緒にアルコール使用障害のための電話介入の無作為対照臨床試験。		
執筆者		
Mello MJ, Baird J, Lee C, Strezsak V, French MT, Longabaugh R.		
掲載誌		
Ann Emerg Med. 2016 Feb;67(2):263-75. doi:		
キーワード		PMID:
動機付け介入 短期介入 救急外来		26585044
要旨		
<p>研究目的: アルコール摂取、飲酒運転、アルコール関連外傷とアルコール関連の陰性結果を減少させるために、電話による介入の有効性を検証するために、アルコール誤用があり負傷し救急治療部(ED)に搬入された患者で我々は無作為対照臨床試験を行う。</p> <p>方法 EDに搬入されスクリーニングテストによりアルコール使用障害が陽性の患者は3回の電話による短期動機の介入にランダム化された。6週間動機面談についてトレーニングされたカウンセラーにより面談を受けた。コントロールの介入として、準備された家庭での火災と熱傷安全教育介入が3回行われた。患者は12ヵ月間経過観察されて、アルコール摂取、飲酒運転、アルコール関連外傷とアルコール関連の陰性結果の変化のために評価された。</p> <p>結果 730例のED患者はランダム化された; 78%は電話でそれらの割り当てられた介入を受けた、そして、それらのうち、72%は12ヵ月評価を完了した。アルコールに関する全3つの変数(過去30日間のアルコールを一度に大量にのむ頻度、過去30日間の一度に飲酒をするの最大量、過去30日間の典型的アルコール摂取の仕方)、アルコールによる飲酒運転、アルコール関連外傷とアルコール関連の陰性結果において、電話による短期動機付け介入はアルコール評価と対照の介入に対して有効ではなかった。</p> <p>結論 電話による短期動機付け介入はEDにおける臨床治療を阻害しないという利点をもつが、我々の研究では、評価と対照の介入群との間に有意な有効性を見つけられなかった。我々の発見の潜在的原因は、損傷そのもの、アルコール評価または対照の介入が、アルコール摂取変化のために有効であった可能性を含んでいる。</p>		